

# 会派の主張

本会議の  
質問など

三面から六面の内容は  
各会派が責任をもって  
掲載しています。

## 公 明 党

代表質問 菱田 英継  
個人質問 十鳥 雅雄

個人質問 吉田 聖子

### コロナ対策を万全に、医療提供体制の充実を図れ!! 修学旅行や部活動の中止に代わる思い出づくりを!!

—今後のPCR検査体制や

医療提供体制について—

問 全国・全世界に広がった新型コロナウイルスは、未だ予断を許さない状況である。本市においても、五月二十五日の緊急事態宣言解除後、次第に増え始め、PCR検査数や相談件数も急増した。しかしながら、本市では、連日感染者が発生していることに市民からは、不安の声があるのも事実であり、この状況をどのように見極めていくのか。また政府は、今後の対策として、コロナとともに、インフルエンザ流行にも備えた検査体制や、帰国者・接触者相談センターの機能の見直し、地域の診療所なども含めた相談・受診体制を整え、対応能力を強化すること等の医療提供体制等が示されているが、これらを具体的にどう進めようと考えているのか当局

の見解を伺う。

健康部長 PCR検査体制

については「帰国者・接触者外来」等の病院で実施する検査と施設等で新型コロナウイルス感染症が集団発生した場合に保健所が直接PCR検査の検体を採取する体制を取っており、現在百検体以上の検体採取が可能となっている。医療提供体制については、唾液でのPCR検査が保険適用となり、医療従事者への感染のリスクが少なく検査を行うことができるようになった。今後、三医師会とも協議し、感染症流行期に備えた診療体制の充実を図る。

—まちの名称の由来を探る取り組みについて—

問 全国の町名は、様々な経緯があって決められた名称であり、本市では、昭和四十年から平成二十二年まで実施した「住居表示整

備事業」により、現在の名称となっている。各地域には、以前の名称が自治会名などに使われているが、その由来については、意外と

知られていないのが現状ではないか。町の名称の由来やまつわる話など、地域にゆかりのある詳しい内容を知ることにより、興味を持たれる人が増える可能性もあり、地域への誇りと愛着を育むことにつながるのではないかと考えるが、市民との協働等何らかの手法で取り組めないか、その見解を伺う。

人権文化部長 まちの名称の由来についての市民協働等での取り組みについての提案であるが、埋蔵文化財センターを中心に歴史に興味を持つ市民ボランティアの皆様との協働や、大学連携の活用を図るなど、今後検討を進めてまいらる。

—文化芸術の振興について—

問 文化・芸術は社会に潤いや活力を与えるのみならず、生きる喜び、力の基盤となるものであり、人々と地域のつながりや交流を促し、決して絶やしてはならないものである。第二回定例会で我が会派からコンサートや講演などを積極的に

行うことを求めたところ、これを受け八月一日、九月六日に文化創造館において関西フィルハーモニー管弦楽団の演奏会が行われた。市として今後文化芸術団体の活動継続・再開に向けてどのような支援をしていくのか、市民の文化芸術に

れる機会創出についても見解を伺う。

人権文化部長 関西フィルハーモニー管弦楽団による演奏会を開催し、コロナに

負けない文化芸術の持つ力を感じていただけたのではないかと考えている。コロナ禍のなか多数の文化芸術イベントなどが中止となっているが、市としても感染対策を講じながら先の取り組みのような実績を重ね、発信していきたい。今後は、市民が直接参加できるイベントの実施などにより、文化芸術団体の活動の場の提供となるような取り組みを検討してまいらる。

—修学旅行の代替案とキャンセル料について—

問 今年度の修学旅行の実施について、本市では、すべての小中学校並びに日新高校の修学旅行の中止を発表した。子どもたちの安全を守るための苦渋の選択であったと考える。本来修学旅行の教育的

位置づけは「平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことがで

きるような活動を行うこと」とある。修学旅行に代わる子どもたちの思い出作りになるものを提供できないのか。修学旅行を中止した他市でも、代替案を検討していると聞く。キャンセル料についても、保護者負担にならないように支援が必要と考えるが、当局の見解を伺う。

学校教育部長 修学旅行は

児童・生徒にとつて大変貴重な学びの場となる学校行事であり、その教育的意義や児童・生徒の心情等にも考慮し、コロナ禍ではあるが修学旅行の実施に向けて調整を続けていたが、全国の感染者数の増加や、本市保健所による宿泊を伴う行事の感染リスクは通常の学校活動よりも高まるという見解もあり、子どもたちの安全を最優先に考え修学旅行の中止を決定した。市立学校には修学旅行の狙いや目的の達成、児童・生徒の心情等に配慮し、日帰りという形での修学旅行や、各校の実情に合わせ工夫した取り組みの実施を検討するよう指示している。修学旅行の中止に係るキャンセル料の取り扱いについては、保護者負担にならないよう現在調整している。

コロナで自粛を余儀なくされた高校生ラグビーに聖地花園を提供 (ラグビー場第一グラウンド)

